

アドベント

クリスチャン・ヘアマンセン

覚悟していますか。何の覚悟かということ、イエスが来られる日までの覚悟です。「アドベント」は元々ラテン語の言葉で「到来」の意味です。キリスト教にとって、アドベントは「キリスト来臨」や「キリストの再臨」の意味です。

『このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒がいつやってくるかを知っていたら、自分の家に押し入れさせはしないだろう』とルカによる福音書(12:39)に書かれているように、唯一神である・キリストは泥棒のように来られます。何時・何処か誰もわかりません。だから、そのために覚悟しないとなりません。

では、どう覚悟すればいいのでしょうか。抽象的に言えば、主は今度どの形で現れても、その形で受け入れる自分の心を開くのは大事だと思います。開くために何が必要かということ、勉強し、人間または世界との出会いが必要だと思っております。ドライヤー監督の映画Ordet(直訳:言葉が、邦訳は『奇跡』1955; 関西学院大学図書館の請求記号791:DVM-499)で気が狂ったヨハネスという人は自分がイエス・キリストだと主張します。彼は流産後亡くなった義理の姉を起こしたいが、周りの大人は皆キリスト者なのに、現代に奇跡がないと思うから、それを拒否します。もしあなたの隣にヨハネスのような人がいたら、どうしますか。もしくは、昨日どこかで神は生まれたと聞いたら、あなたは どう思いますか。

母国のデンマークでは「アドベント」といえば、浮かびあがることは二つです。クリスマスの準備とカウントダウンは共通点です。一番は教会や家にあるアドベントのリースです。リースに蝋燭四本があり、アドベントの第一日曜日からクリスマスまでにある四週間間に、毎週一本を増やしながら蝋燭に火をつけます。二番は特に子どもにとって大事なことです。12月1日からクリスマスイヴまでにアドベントカレンダーの24の扉を開けることです。1970年代から、デンマーク放送局は連続テレビで子ども番組を放送して、ストーリーに伴うアドベントカレンダーを販売して、収益を貧しい国の子供のためのプロジェクトに寄付しました。だから、デンマークではキリストの再臨より2000年前のイエス誕生の祝いに集中しています。日本と変わらないでしょう。

教会のカレンダーで、新しい年は神によって与えられたものです。

明けまして、おめでとうございます。

(宣教師)